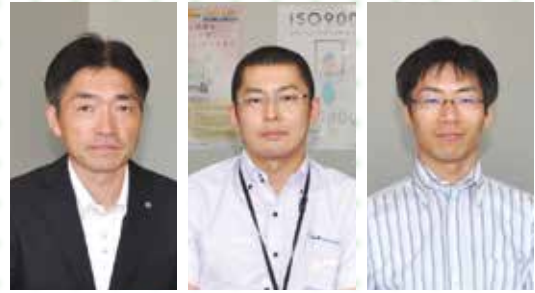


## 株式会社 第一印刷所

●代表者/代表取締役社長 堀 一 ●創業/1943年12月 ●従業員数/265名  
●所在地/新潟市中央区和合町2-4-18 ●URL/www.dip.co.jp

## ことづくりへ進化のため 一気通貫の生産体制へ



(株)第一印刷所  
皆川副部長

(株)プレスメディア  
柳沢取締役

(株)プレスメディア  
太田センター長

「高品位と高品格へ」。これは(株)第一印刷所と(株)プレスメディア(本社・新潟県新潟市、柳沢茂社長)を中心とした7社の関連会社集団「D'sNET(第一印刷所グループ)」が掲げる最大のテーマであり目標である。高品位とは、お客様が喜ぶ「ものづくり」を表しており、高品格は今年年初、堀社長が「ものづくりからことづくり」へと進化するため、全グループに向けて新たな道標を示したものである。グループの中心である両社は、高品格へ進化するために様々な取り組みを開始しており、その一つとして富士フイルムグローバルグラフィックシステムズのワークフローシステム「XMF」を活用し、グループ全体を巻き

込んださらなるデータのシームレス体制の構築を押し進めている。ここでいう「ことづくり」とは、お客様の課題解決のためにグループ全体の力を結集することだという。

「XMF」を導入したのは昨年の夏。各専門業に特化した「D'sNET」内で一気通貫の生産体制が課題となっていることから、その課題を解決し、生産効率、営業効率を高め、グループ全体を巻き込んだ再構築のためである。「お客様との関係は損なわずに、効率的に仕事を流す仕組みが必要だった。そのために営業主導でワークフローを選定させてもらった。地域柄、営業は現場とお客様の移動があまりに



「高品位と高品格へ」が目標

も多く、なんとかしたかった。『Remote』は直感的に操作でき、お客様との連携効率が期待できるとすぐに感じた。

導入し、今年の1月から『Remote』を活用した提案を行っているが、お客様にもメリットがあることを丁寧に説明することで、『Remote』を活用して頂けるお客様はどんどん増えている。結果的に営業の訪問効率も上がり、営業一人ひとりの本来の営業が出来る。」と第一印刷所営業本部の皆川和仁副本部長は導入の効果を語る。

また、営業業務も、こなす仕事から創り出す仕事に変わった。営業メンバーはお客様先で、「D'sNET」が提供できる販促資料や動画を、iPadを使って説明しながら課題を引き出すスタイルに変わりつつあるという。

一方、印刷物のデータ制作などを担当するプレスメディア側も「XMF Remote」を活用することで、制作の流れが大きく変わった。「『Remote』をお客様に活用して頂くことで、お客様との意思の疎通が良くなりミスが減少した。また、お客様からの入稿時間も営業が直接に持参するより格段に早くなり、下版のスピード・生産効率も上がった。営業と連携してRemote活用をさらに提案していきたい」とプレスメディアの取締役でもありメディア推進部長兼デジタルセンター長の柳沢佳嗣氏は言う。

「インターネットを業務に活用することは当たり前

になりつつあり、それを使うメリットは確実にある。当社でもお客様、営業、制作の三者で制作情報をリアルタイムに共有できるXMFはインフラの底上げにもなった」とプレスメディア和合センターの太田忍センター長は評価する。

また、XMFを活用することで、グループ内にあった距離が縮まると同時に、オペレーターとお客様とのコミュニケーションが増えてきた。オペレーターとしても自分が作ったものがお客様にどう使ってもらえているのかが判り、それがやり甲斐にも繋がっているとも同社は考えている。

また営業部隊を持つ第一印刷所としても、同社の商圏は広域にわたっており、距離と時間のリスクを効果的に解消するツールとしてXMFを活用している。現在同社では、営業一人に一台モバイルを持たすことを視野に検討中で、物理的な距離を縮め、営業全体に浸透した時の効果を期待している。「一番の目的は営業の負荷低減による営業力の向上と、前後工程に対しての意識の拡大である。さらに『ことづくり』の道具として活用することで、販促に繋げたい」と皆川副本部長。

また、将来的にはグループ全体が繋がるMISの導入を検討したいという。MISとXMFの連携で全社的にデジタル化されていくことで改善を図ることも将来として見越している。